

# 診療所だより

## 牛が教える性教育 Part IV

牛の性周期（発情から発情までの期間）は大体21日というのは、皆さん良く知っていますよね。その間、牛の卵巣では、どんな変化がおきているのでしょうか？

超音波（エコー）が使われるようになって、卵巣の面白い変化がわかりました。それは、一性周期の間に、2回（10日間隔、経産牛に多い）から3回（7日間隔、育成牛に多い）の卵胞の発育が見られることです（これを卵胞波と言います）

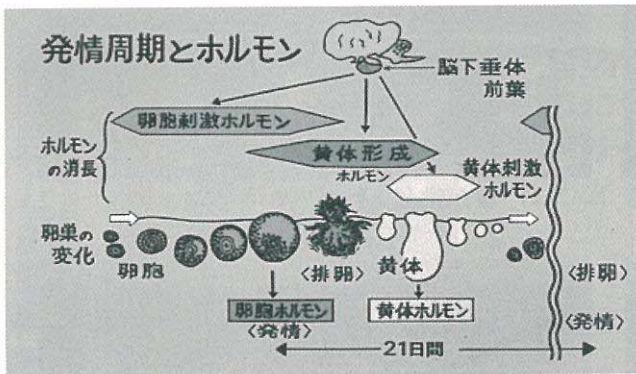
### 発情Ⅱ卵？

では何故、卵胞が発育しているのに、発情が来ないのでしょうか？ 発情Ⅱ卵と考えていたら、おかしなことですよね。確かに発情がきている時には、卵巣に発育した卵胞が存在しています。直腸検査で立派な卵胞を触ることが出来ます。そして、こう言つと思

います。

「立派な卵があるから授精しましょう」でも、そのあと発情が続いたことはないですか？ あるいは、「卵が大きすぎて排卵しそうにないです。授精は無理です」と言われたのに、あくる日には出血していたことはないですか？ 発情の良し悪しを卵胞で判断するのは無理です。

外陰部の状態、粘液、子宮の収縮、咆哮や拳動、それら



全てを総合的に判断して、発情かそうでないかを決めないといけないと思います。

### 発情Ⅱ黄体!!

卵胞が発育しても発情が出ないようにしているのが、黄体です。黄体は排卵した（卵が割れること）後に出来ます。そして黄体ホルモンというホルモンを出して、発情が出ないようにしているのです。卵胞からは発情を出そうとするホルモンが出ていますが、卵胞が発育すれば、そのホルモンの量も増えます。

そんな訳で、黄体が存在している間はどんなに卵胞が発育しても発情が出ないのです。性周期の終わりのほうには、黄体も退行（力が弱くなる）してくるので、発育した卵胞の影響で発情が出るのです。発情の良し悪しは黄体で決まるといつても良いかもしれませんが、それほど大切なものが、黄体です。

いくら発情のときに直腸検査で卵巣を触って卵がどうのこうのと言つても意味ないでしょう。粘液が出ていて、兆候があつて授精を依頼したが授精出来なかった。そんな時には黄体が出来ているかどうかを10日目位に検査すべきです。黄体が出来ていればその時の粘液、兆候は間違いなく発情です。黄体が出来ていなければ、発情ではなかったわけですから、ホルモン注射などの処置をしましょう。



〈緒方獣医〉